

---

# NARUTO転生モノ。

不思議の国のミク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

NARUTO転生モノ。

### 【Zコード】

Z7533Z

### 【作者名】

不思議の国のミク

### 【あらすじ】

ツバサ転生モノ。の主人公アリスさんが、NARUTOにいったら。という妄想小説です。

といっても、プロローグからすべてやり直しますが。容姿、能力などは、次元移動と、運などは変わりますが、後は変わりません。ツバサと同じように駄文になると思いますが、おねがいします。

プロローグ（前書き）

プロローグです。

## プロローグ

「う・・・ん・・・?」

田覚めるとこつもとは全く違う場所。

田の前には幼女さんがいる・・・。

まあ、それはどうでもいいことじ「どうでもいへないですよーー」で、  
といあえず、夢だか「無視ですかーー無視するんですかーー?」らも  
う寝てしまいまじゅう。

「おねがいしますーー!反応してくださーー!もつなこやひこまやか  
ーー!」

えーっと、あ、床がちゅうと固いですが、寝れますね。よし寝まし  
よ「本当に願いしますーー!反応してくださーー!反応してくれな  
かつたらもう本当にになりますよーー!」

「あーーもうーー!うるさいこといたのこ、元のうるさいこと  
にしてくれちゃうひるんですか。」

「私ーー?私が悪いんですかーー?」

「あたりまえじゃないですか。いいから寝かせてくださいよ。」

「いや、おねがいしますー本当にーー!話だけでも聞いてくださいよ。」

・・・しかたないな。

「で、話はなんですか。」

「よひやく聞く氣になつてくれましたか・・・それでは話ます。あなたは私のせいでしんてしま・・・「よし。寝よひ。」いえ！！本当にんです！寝る準備しないでください！！！」

「ここに生きてこらじやないですか。いい加減にしてくださいよ。

「いえ、あなたは私のせいでしんでしまいました。」

「一応信じて見る」とこじります。で、あなたは誰なんですか。」

「私ですか？フッフッフッ。聞いて驚いてください！・わたしはかよし。寝よう、うん。」ああああつすみませんっ！・すみません！・もひふざけないので聞いてくださいといいい「」

「もう一度聞きます。あなたは誰ですか。」

「私は神です。」

「頭が逝かれていますか。大丈夫です。私の近くにある精神科のお医者さんはとてもやせしい方なのでやさしくしてくれま「お願いします！・本当にお願ひします！！話を聞いてください！！話を聞いてくれないと神の座から天使に下ろされてしまうんです！！」・・・はあ、分かりました。少しの間しゃべらないので、その間にはなしてください。」

「ふう・・・では、もう一度いいます。私は神です。でも、まだまだ新米なので、仕事にあまり慣れていませんでした。なので、この

前に、机の上の書類を床にぶちまけてしまつて・・・で、書類を取つていたら、運悪く書類を踏みやぶいてしまいました。その紙があなたのことが書かれている紙だつた・・・といつわけです。

「ふうん。一応信じる」とこじれます

「有難うござります。それで、あなたを殺してしまつたお詫びとうわけで、転生＆チート能力を渡そう、とおもつたので、呼び出させていただきました」

「そうですか。わかりました。因みにもとの世界には「できないです・・・すみません」なんですか？」

「死者が元の世界に戻るために、一度善行を行つていた方は、天国に。悪い事をしていた方は、地獄に。ということになつています。そこで、5年間天国では、魂を休めます。地獄では、分かると思いますが、今まで行つた罪を地獄で苦しんできます。ですが、軽い罪だと、半年くらいで天国にいけます。ですが、普通の寿命よりも早く死んでしまつた場合、元の世界にもどれなくなつてしまふんです。天国にも、地獄にもいけないので・・・」

「ふうん。それじゃあどこにいくのですか」

「はい。あなたには、この中のどれか一つをえらんでいただきます。

」

そういうて紙がだされた。

えつと・・・

魔術と科学がある世界。

ある学園での世界。

心を使って銃を撃つ世界。

忍者がいる世界。

魔法少女がいる世界。

えっと。

多分、1はとある魔術の世界ですよね。

2は・・・予想がつきませんが、平和な世界のようですね。  
3は多分テガミバチですね。

4は忍者ですからNARUTOですね。

5は・・・リリカルなのはか、まだかの世界でしょうか。

1は上条さんの不幸が悪化しそうなので、却下。

2はチート能力くれるのに、まず平和ということで却下。

3は下手したら心とかなくしそうなので却下。

4は結構刺激があつて面白そうで、ナルトにもあつてみたいし。候補  
5は魔法少女とか興味ないので却下。

となると4番ですね。

「4番でお願いします」

「わかりました。それでは能力を5つだけいくつください。殺しちやつたの私ですし。

少々無理なものでもかなえます」

「それでは・・・

1つ目はテガミバチのマカの能力（髪の毛を剣に変える・身体能力）ですね。

2つ目はとある魔術の禁書目録の超能力全般、レベル5で使えるようにしてほしいです。

3つ目は、やっぱりチャクラを九尾の10倍くらいで、超能力をチャ克拉で代用するようにお願ひします。

4つ目はうちは一族に生まれるようにしてお願いします。

でも、万華鏡車輪眼は、5歳のときに開眼するようにお願いします。

5つ目はやっぱり、原作加入できるようにお願いします。後は・・・ないですね」

「チャクラ九尾の10倍って・・・結構きつい事いいますね。でも。不可能ではないのがんばってみます。」

パチンシ

神様が指パチンするとパソコンが出てきました。

「（カタカタカタカタ）・・・よしつ。なんとかできました。それでは、第2の人生をお楽しみください。」

すると、田の前が暗くなってきた。

「あ。神様。私のわがままでありが・・・と・・・」

う

そのまま意識を失つた。

## プロローグ（後書き）

プロローグです。

誤字脱字があればお願いします。

## 主人公設定（前書き）

主人公設定です。

## 主人公設定

### 主人公設定

名前 うちは アリス

容姿 テガミバチのニッチよりも3?低い。  
髪の毛は茶髪、目は金色、手は普通。

体重 聞いたつてほぼ意味がないほど軽い。  
敵に軽く投げられただけで2?飛ぶ。

性格 自分からは攻撃しない。でも相手が攻撃したら  
攻撃を開始する。はつきり言って冷血

能力 とある魔術の禁書目録の超能力を  
すべてレバ5で使える  
テガミバチのマカの能力身体能力は修行して、  
3倍になっている。  
チャクラが九尾の5倍となっている。

とりあえず今はこうなっています。

話が増えていくことに、多くなると思います。

## 主人公設定（後書き）

誤字脱字など報告お願いします。

## 1話 アリスの誕生？（前書き）

1話  
です。

## 1話 アリスの誕生？

「んにちは、アリスです。

生まれて間もないころに捨てられました。

なぜでしょう。

それは、自分のチャクラが膨大にあつたから。

チャクラが多いのがダメでしたね・・・

そしてマダラさんに拾われました。

まさかの晩に入りましたよ。

原作加入したいといつてもこういう形で入りたくはなかつたですね・  
・・。

まあ、別にいいですが。

ゼツさんから「うと、木の葉に入つて九尾の監視をして、報告する、  
だそうです。

まあ、こういう立場もいいかもしれませんね。

暁の中で、5年たつた後に、万華鏡写輪眼が開眼しました。

マダラさんとかペインさんとかに驚かれましたね。

まあ、暁の本部に住むわけにはいかないので今実際一人暮らしをしていますからね。

6歳になつたときにイタチさんが暁に入つてきました。

イタチさんに驚かれたけど、「サスケを頼む」つていつてきましたし。

サスケさんも監視して、イタチさんに報告しています。

ちなみに今アカデミーで授業している途中です。

マ力の能力のせいが、記憶力がいいらしいですね。

テガミバチの二ッチも200年以上前のこと、覚えてるつて言いますし。

まあそこら辺はおいといて、

いまナルトさんがいるか先生に怒られていますね。

火影の顔岩に落書きをしたとか・・・

ちなみに成績は中くらいでどどめています。

たまに一度で成功したり。などですね。

修行するときは結界はつています。

理由は簡単です。そのときに報告とかしたり、普通の修行法（つてもガイ先生でも全くできないくらいハードな修行）など、あまり見られたくないですからね。

超能力とか、マカの能力で、剣にしたり、武器作ったりなど。

みられたら、火影さんに聞かれそうですし。

あ、ナルトさんがイルカ先生に口答えして、変化の術のテストをすることになりました。

まあ、楽勝なので、一発合格にしちゃいますか。

あ、ナルトさんの番ですね。

「変化！…」

ボンッ

「イルカせんせえ～」

とかいいながらウインク。

はつきり言つて気持ち悪いですね。

あ、イルカ先生が鼻血だしてたおれました。

「バカモノ！…変な術作つてないで、術の練習でもしてろー…！」

あー、怒られますねー。

まあ、関係ないですが。

あ、次私ですね。

「変化」

ポンッ

普通に火影さんに似てるよつに変化しました。

「よし、いいぞ」

うん。疑われていないです。

そりやつてどんどん次にいつてつて、終わりました。

あ、今日の授業おわりました。

もつ帰りましょうか。

ん? サスケさん?

サスケさんなら結構つまごくらいで終わらせましたね。

はつきり言つてサスケさん。迷惑なことしますからね。

先生がこの術しますよー、とかいつてお手本見せてる途中で、やつてともいってないのにやつて、成功させてますからね。

先生からにじりまわれますよー。

ちなみにナルトは、サスケのマネして、失敗しておわりましたね。

ナルトはチャクラの練り方が駄目だから、失敗するだけですからね。

こんじ教えましょーつか？

いや・・・ダメですね。

あまり原作を壊したくないので、Cランク任務のときにやらること  
しますか。

そうしたら中忍試験の時にあまり負担がかかりませんしね。

個人的にはイタチさん死んでほしくないので、とりあえずサスケが  
大蛇丸に呪印つけられないようにしますか。

イタチさんは弟思いのいい人ですからね・・・。

そんな人が死んでしまうなんてもつたいないので。

とりあえず、あまりイタチさんに負担かけない様にしますか。

あ、もうこんな時間ですね。

とつあえず寝ます。

今気づいたことが一つ。

身長が一ツチよりも低いです。

まあ、7班にはいれるとは原作加入能力で、わかりますが。

タズナさんにバカにされそうですね。

まあ、どうでもいいですか。

寝ましょう。

## 1話 アリスの誕生？（後書き）

誤字、脱字など報告おねがいします。

アトバイスや感想もお待ちしております。

2話 アカトリー卒業試験。（前書き）

この先どうぞ。

## 2話 アカデミー卒業試験。

「んにちは、アリスです。

今日は、アカデミー卒業試験とかいうやつですね。

もちろん、課題は分身の術ですが。

ナ「げえええっ！俺の苦手な術だつてばよ・・・」

うん。ここも原作どおりですね。

それについて、これ終わったら報告ですか。

その後は自由行動つていわれてますし・・・

ま、ここはマズキの傍観でもしますか。

あ、サスケさんが出てきましたね。

そつこねばこの試験つてランダムなんですよ。

なんというか・・・くじであたつた人から呼ばれて、そのままいくつて感じですね。

まあ、あまり何番目でも別にいいですけど。

サスケさんが先にしても、結果額当てをみれば、合格したか分かりますし。

後でも、少しまつてれば分かることがありますから。

ナルトさんは、原作がおつ失敗するはずですから。

特にきにしなくても、大丈夫でしょう。

「次ッ！アリス！」

あ、呼ばれましたね。

それでは、いってきます。

イ「いつも通りにするんだぞ」

「はい。分かりました」

んーどうでしょう。

一応分身の術は、得意といづキャラで言つてますから・・・

3~6くらいでいいでしょう。

『変化ツー』

ボンッ（煙が出た音）

すると「アリスが5人になつていていた。

イ「よしつー合格だ！」

うん。疑われていなかから、大丈夫だね。

得意だし、5人ぐらいでも普通だとおもつてたんですね。

今の状態で本気だしたら何体であるんでしょう・・・

大体1万はできますよね。軽く。

まあ、早く報告しないと・・・。

額当てもらつて、普通に挨拶つと。

「先生ー！ありがとうございます」とまつたつ

そして満面の作り笑い。

うん。これで演技は完璧ですね。

はあ、それにしてもこのアカデミーのレベルに合わせるつて結構面  
倒くせいです。

レベルが低すぎるとです。

もう画面倒くせいってほどじゃないですね。

なんだ行きたくないとももつたか・・・。

早く家に帰つて報告しないと・・・。

あ、サクラさんですか？

サクラさんば、監視対象にもなつていないと、

自分の中では、モブキャラ程度しか思つてしません。

しかもいつも「サスケくううーん！私合格したよおお～」

はい、いりです。

すみません。

はつきりいって邪魔でしかありません。

サクラさんもそうですが、イノさんも同じ感じですし。

はつきりいってどうでもいいですから。

でも同じ班になるのは本当にやめてほしいかな・・・。

なんかネギまーとかでよく見るアンチつていつのをやつてみましょ  
うかね・・・。

・・・面倒くせこですかりやめときましおうか。

おひとい、やつこいつの闇にもう家にひこてこました。

わざと報告書かいて、渡しましょうか。

ほどさび誰にも見つからない洞穴があるんですよ。

そこじで報告書を渡してゐるわけですが。

原作の場所と、すぐ近くなので。

早くいかないといけませんね。

結界はつて・・・マカの能力をつかって、鉛筆を5本持ります。

そして報告書を一気に書く!

いつしたら一分ぐらこでもひでせひゅこますからね。

筆跡は私の字と同じですし。

ちなみに能力のことは、暁金圓に話してありますから、驚かれませんし。

で、書き終わったので、わざと報告書を渡してこましうつか。

よし、着きましたね。

早く渡しちゃいましょうか。

結界はつて・・・と。

ゼッゼーん。

ズズズズズズ（壁の壁から出でる音）

（白にまつと黒にまつの前が切れてしまつたので、白と、黒で分けます。）

白「もう終わったのかい？早いね」

黒「テ、報告書ハドゴードル？」

「はい、これです

白「毎回悪いね。ありがと。」

「で、このをイタチさんに渡してくれませんか？」

黒「アア、ワカツタ」

「ありがとうございます。次の報告は何時ですか？」

白「大体中忍試験前くらいのときに報告をお願いするよ」

「わかりました。では」

ズズズズズズ（部屋の壁に戻つていぐ音）

「さて、と。まずは、傍観ですね」

そうつて少しはあるいてから戻ついた。

「もう一えば火影は水晶玉からなんか見てるんですね」

・・・・うだ。

「結界張つて、自分のことを認識できなくしまじょう

言わば、ネギマーでいう、認識障害魔法ですね。

まあ、魔法なんてオカルトなモノでもないですが。

とつあえず、結界はつて・・・

ついでに気配も消して・・・と。

よしつ、傍観にきましょつか。

アリス移動中

うん、いますね。

ミ「・・・・・ま・・・・・た！・・・・・なんだよ…」

ああつ、少し遅かつたですね。

まあいいです。

ちょっとくらいおそくでも、大丈夫でしょう。

イ「そうだよなあ・・・さびしかつたんだよなあ・・・・・」

イルカ先生がナルトさんをかばつてますね。

ナ「な、なんで・・・俺なんかを・・・」

「…こちらはつまりないですね…なんか漫画とかでよくある展開ってモノですね。

ちよつとききながして、最後のほうに移動。

少しまつていたらナルトさんとイルカさんがきましたね。

イ・カルテ……少し後ろを向いて、頭をつぶつていろ」

お、  
密室でを一にてますね

ナ・タ・ニ・シ・テ・ル

トマトの栽培

ナルトさんよなつたですね……

あ、でも今考えたら、私というイレギュラーが入つたらスリーマンセルじゃなくて、フォーマンセルになりますね。

そこは修正力とやらが働いて、まあ、大丈夫ですよね。

「よしーそれじゃあ今度は、俺が一樂のラーメン奢りだ！」

ナ「本当だつてばよ! ? やつたー、いつぱい食べるひばよ!」

終わつたみたいですし。戻りましょうか。

瞬身の術で家にすぐさま移動。

もう寝ますか・・・。

火「ふむ・・・これはなんじゃ？」

そこにあつたのは、ちょっとぼやけたよつたものが映つていた。

一方。火影のところでは・・・。

元々、認識障害魔法的なものなので、耐性があるならば、少しほみえるようになつてゐる。

なので、少しだけ耐性のあつた火影は、「うすら」とみえる、ぼやけたようなものに調査をするように忍に頼んだ。

ちなみにこのことをアリスは知らなかつた。

## 2話 アカデミー卒業試験。（後書き）

2話です。

少しは長くかけたかと思います。

アトバイス、感想、誤字脱字等等。

報告お願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7533z/>

NARUTO転生モノ。

2011年12月26日22時49分発行